



創立昭和34年3月14日
創立50周年

THE ROTARY CLUB OF SAPPORO EAST 第2510地区 札幌東ロータリークラブ

WEEKLY-BULLETIN

2008~2009 9月25日(木) 第12号 第2436回例会

札幌西北RCとの合同例会

《卓話》 「柔道と私」

総合警備保障㈱ 参与 シドニーオリンピック金メダリスト
井上 康生 氏

私自身、現役を去る時に「我が柔道人生に悔いは無し」という言葉を言って畳を降りました。今この壇上に立って、もう少し柔道をやっておけば、こんな緊張を味わわなくて済んだのと思います。

私と柔道との出会いは5歳の時でした。父が柔道を志す人間でして、ある時に練習風景を見に行き、170cmの父が得意の内股で大きい選手をバンバン投げていました。その姿に私自身あこがれて、カッコいいな、柔道をやってみたいな、という想いで柔道を始めました。幼稚園から始めて、7ヶ月くらいで県大会の幼稚園の部で優勝しました。そこで勝つ喜びを味わいました。その頃から大きな目標を持っていました。それは柔道で強くなりたい、日本一、世界一またオリンピックで優勝したい、そういう目標を持っていました。地方のテレビのインタビューでのコメントで言い忘れた事がありまして、実はオリンピックに出場して金メダルが欲しい、それが言いたかった事です。目標に向かってどうすれば良いのか、そのためには一生懸命努力する、練習する、その事がその時に大事だと思いました。

25年間の中で色々な挫折も味わいました。小学生の時に右足首をポッキリ折ったりしました。大きくなって、どうしても勝てない時期、スランプを乗り越えられない時期がありました。アテネオリンピックでは皆様の期待を背負いながら、また100%金メダルが取れるだろうという中で、惨敗してしまいました。自分の人生の中で最悪な出来事でした。その中で心がけて打ち勝って行けた事は絶対に怯まずに、逃げなかった事だと思います。常に前を向いて生きて行く、また母や兄が亡くなった時は神や自分自身を恨んだこともありましたが、何もしたくないと思った時、亡くなった二人は本当は喜ばないだろう、もう一度立ち上がって頑張っていく事が天国から後押ししてくれると思います。

また私の人生にとってもう一つ大きな事は、けっしてこれまでも、これから一人生きていないという事です。色々な苦勞をした中で周りの方に支えられ、ここまで来れました。家族の話をするとうちは親であり、師匠でもあります。とにかく厳しい父でした。なにか悪い事をした時は、もう手は出るは、足は出るはのそんな父

●本日のプログラム●

クラブ・フォーラム

クラブ奉仕委員会

でした。その父が一番心がけて来た事は礼儀でした。中学生の時、高校生と試合をする事があり、相手は思いっきり戦って来るだろうと思っていましたが逃げて、結果は引き分けでした。その態度に納得が行かなくて礼をしないで帰って来ました。その時、父が物凄い形相で立っていて、同情してくれると思った瞬間に手が私の顔にヒットしていました。柔道は相手がいて初めて成立するものだ、相手がいないと強くなれない、また色々な人達がいるからこそ初めて強くなれるんだ、という事を後になって言われました。殴られた事に対して何故と思いましたが、その時初めて気付きました。そういう父の厳しい教育を受けたからこそ大きく成長する事が出来ました。

その反面母はとても優しい、私自身を温かく包み込んでくれる母でした。ですが私の柔道の素質を誰よりもいち早く見抜いていたのは母だと思います。小学生の頃、道場に通ってまして、一日も欠かさず練習について来てくれました。何を言う事もなく、ずっと板の間に正座して練習風景を見ていました。帰ってから父に報告してアドバイスをくれました。そうした苦勞をしながら私を育て、バーミンガムの世界選手権を迎えました。初めて代表になった大会をとっても楽しみに、誰よりも私が世界チャンピオンになる事を信じていてくれました。しかしその年は最悪の年で、スランプに陥って出る大会、出る大会すべて一本負けで、裏面に続く➡



■本日のロータリーソング / それでこそロータリー

例会前のBGM ロッシーニ 歌劇シリーズ-1
食事中のBGM 行進曲シリーズ-1